

公益社団法人

隊友船橋だより

平成30年 1月号 発行：千葉県隊友会 船橋支部事務局

「年頭のご挨拶」

千葉県隊友会船橋支部の会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えされたこととお慶び申し上げます。

支部長として、今年は例年同様会員相互の交流をより活発にし、また会員各位からの有益な提



言を取り入れつつ、会員相互の親睦や知識向上に繋がる行事を従来の恒例諸行事に付加する形で図ってまいりたいと考えています。合わせて自衛隊への協力をさらに深めていきたいと思ひます。さらに若い力を勧誘していきたいと考えています。

さて、我が国をとりまく昨今の情勢は、強い緊張を感じざるをえないことに異論は無いと思ひます。支部長としては隊友会員の立場を堅持しつつ、一朝有事の際には自衛隊に協力できるよう識能・体力を維持してまいりたいと

思いますので会員の皆様も元自衛官として意識を高く持っていただきたい
と思います。以上のような意味を込めまして会員各位の御健勝と御活躍を
切に願い年頭の御挨拶とさせていただきます。（船橋支部長 森 良雄）

「千葉県隊友会 部隊研修に参加して」

平成30年1月15日海上自衛隊横須賀地方総監部の岸壁に接岸
した「護衛艦 いずも」を船橋支部から7名が参加、部隊研修した。



横須賀駅前を14時に集合
した千葉県隊友会の参加者
約100名は「いずも」の案
内係から注意事項を聞き、グ
ループごと2列縦隊で船腹

横の急斜面の乗降口（車両も出入りすることのできる）から乗船し
た。そこは、甲板の下にある格納
庫で、第一格納庫と第二格納庫、
整備区域の三つに分けられるが
当日は、すべての仕切り扉は格納



され、四角の大きなトンネルのような空間がのびている。一番奥の

機整備区間に小さく見えるヘリが一機駐機していた。床は、全面1センチほど鋭利に盛り上がったざらざらした塗装で転倒すると肉まで剥がれそうな状況で、今まで見学した護衛艦の床とは全く別だった。これは、ヘリの滑り止めの為だという。ここからさらに急な階段



を下って会議室へ移動。この間は普通の護衛艦の床と同じで鉄板に普通の塗装であった。広報担当から「いずも」の概要、性能、今までの「活動の説明を聞き格納庫へ戻り、

ヘリを甲板移動する昇降機へ100名が全員乗っても十分余裕のある大きなエレベータに乗って甲板へ移動。乗組員は約400名（一割の約40名が女性）である。この船の特徴は航空管制官や、航空関係の整備、消防関係者が乗り組んでいる。災害派遣自衛官500名、その資機材等の輸送、被災者、傷病者の受け入れ、手当ても可能。基準排水量19,500t。全長48m。全幅38m。高さ4



9 m。喫水 7 m。機関ガスタービン 4 基 1 1 2, 0 0 0 馬力。速力 30 K t。「すごい」の一言。

隊員は「護衛艦」というが、まさに航空母艦である。一日も早く「駆逐艦」「戦艦」「航空母艦」と言えるような日が来ることを強く願う。(事務局長 岡本)

「千葉県隊友会船橋支部定期総会」

5 月 2 0 日 (日) 1 0 時から習志野駐屯地 (隊員クラブ) で、開催します。総会終了後、懇親会 (会費三千五百円) 詳細は、3 月に、ご案内します。会員は陸・海・空・技官・事務官等の退官者がいますが、在職中の階級は一切ありません。同じ隊友会船橋支部会員としての親睦会です。新しい出会いがあると思います。参加できるよう予定に入れておいてください。お待ちしております。(事務局)

「大穴地区の七勇碑春の清掃と供養」

6 月初旬に予定。詳細は後日「船橋だより」に掲載します。

毎年、春と秋に実施しています。毎回 1 5 名程の会員と地域の人々が参加しています。

お近くの方は、参加してみてください。(門脇副支部長)